

3. 教職フィールドワーク（韓国） Field Experience in Education (Korea) レポート

韓国の英語教育 — 「教職フィールドワーク（韓国）」参加報告—

戸田 浩美

1. はじめに

634、574。これは2011年の韓国と日本のTOIECの平均スコアの数字である。（（財）国際ビジネスコミュニケーション協会によれば、韓国が634点で日本が574点である。この数値から両者には100点もの差がみられる。同協会によると2000年の時点では両国とも平均スコアは560点前後であり差はなかった。わずか10年で何故ここまで点数に差が開いていったのか。この疑問について何等かの答えが見つければと考え、「教職フィールドワーク（韓国）」に臨んだ。

「教職フィールドワーク（韓国）」は、教職課程を履修している大学2年生が参加することのできる科目で、2013年は9月8日から13日まで5泊6日の日程でソウル特別市で実施された。韓国の歴史、文化、日常生活に接するとともに、アジア隣国の英語教育の実態を調査することが目的である。今年プログラムでは、ソウル市内の大学、高校、中学、小学校の英語授業を参観し、学校関係者に質問したり意見交換を行った。また、ソウル近郊の京畿道パジュ英語村を訪問し、どのような英語プログラムが実施されているかを調査した。

2. 現地調査の視点

さて、近年、日本では英語教育の見直しが行われている。小学校5年と6年で外国語活動として英語が必修になったのは一昨年の平成23年のことであるが、韓国では10年以上前から初等学校3学年から英語教育が行われている。英語教育開始年齢の違いもさることながら、その教育内容はどのように異なるのだろうか。ここでは高等学校の英語教育について考えたいと思う。

私は高校の国際教養科に通っていたので、カリキュラムは普通科とは違い英語に特化したものであったかもしれないが、振り返ってみると次のような教育内容だった。一年生の時は発音の仕方、文章の書き方、文法項目の一部など、日本人の先生と一緒にALTの先生が共同で授業を行っていた。またアンネ・フランクやリンカーン、キング牧師などのスピーチを暗誦しコンテストが催された。このコンテストは先生が優勝者をジャッジするのではなく、生徒が選んだ。英語合宿で英語しか話せない状態も体験した。二年生になるとディベート大会があった。ディベートは先生が提示した命題について、すべて生徒が主体的に自由に準備を行った。ディベートではすべて英語で論争した。しかし三年生に入ってから一、二年生でしたようなコミュニケーションとしての英語の授業がなくなり、大学受験に向けての試験対策の授業形態に変化していった。また、ある高校（総合学科）の英語教育は、文法や、リーディングの授業ではグループになって日本語で話し合っ問題解いていく授業形式だという。ここでは問題に対応することを話し合うので、英語を自由に話したりや英語を使って自由に何かを調査するという活動はない。

このように、日本の高等学校の英語教育はコミュニケーションの手段として英語を学ぶのではなく大学進学に向けての授業形態であると思う。韓国の高等学校の英語教育はどうなのだろうか。私が経験してきた暗誦大会や、ディベート大会、英語合宿はあるのだろうか。机は教卓に向き先生の話聞くだけの授業形態なのか。韓国での授業参観を通して調べてみたいと思った。ある文献で、韓国のテキストは分厚く、学校で取り扱う語彙数も日本と比べ物にならないほど多い、と書かれていたので、英語の授業中は英語のみで、どの学年でもいっさい韓国語が使われず、分厚い英文の本を読みそこから文法を学び、文の中身を先生が英語のみで説明するような授業が行われているのではないかと想定した。また、韓国でも日本のセンター試験に当たる大学修学能力試験が重要視されている。したがって、受験に対応するような授業が展開されているのではないかと、学生が自由に英語を話すという授業はなく、生徒同士で話し合うこともないのではないかと予測した。

韓国の英語教育を視察するに当たっては、そのほかに様々な疑問を持って臨んだ。日本でも取り組んでいるコミュニケーション力をどのように培っているのか、小学3年生からの英語科目の導入はどのような影響をもたらしているのか（英語が好きになるのか、母語の能力がおろそかにならないか）、学校教育がTOEICのスコアにどのように影響を及ぼしているのか、英語力はどのような試験によって図っているのか、政策としてどのような英語教育を推進しようとしているのかなどである。

3. 調査報告と考察

以下に、学校訪問や授業参観を通してわかったことを、訪問した学校別に報告したいと思う。

○ソウル女子大学

ソウル女子大学では3コマ授業見学をさせてもらった。ここでは英語の授業2コマについて述べる。1コマ目はネイティブの先

生が行う文学系に進む学生の授業に参加させてもらった。まず週末に何をしたのかを二人ペアになって英語で会話をする。その後先生が生徒に会話の内容を聞き出す。それから教科書に沿った授業に入る。先生に指名された生徒が本文を読む。30秒〜1分間ほどの会話の英語の音声を流す（この日の内容は、ピカソがインタビューを受けている会話であった）。そのあと聞いたことについての正誤問題を12問程度各自で行う。そして、隣の人と答え合わせをする。片方が問題を言い、もう片方が自分の答えを言う。リスニングの英文は正誤問題が書かれている見開きの後ろに全文載せられている。みんなの答え合わせが終わったところに先生が生徒に答えを聞いて答え合わせをする。これを3回行い終了。教科書の本文自体は少なかったが、リスニングの英文の量は多かったなのでその分をいれると結構な分量の英文を学習したことになる。

この授業に参加して感じたことは、かなり集中力がある授業だということである。英文の音声は速いうえに分量も多く、少し気をそらすと大事なところが分からなくなった。また自分一人で答え合わせをするのではないのでパートナーに迷惑をかけないようにしっかりと聞いておかなければならないという意識が持てた。先生が解答チェックを確実にしてくれるのもいいと思った。間違えた場合は、間違いの原因を的確に指摘してもらえるので効果的に学習ができる。生徒の声が小さいと”Big voice and happy voice.”と先生が声をかけていたことも授業の雰囲気をよくする。“Happy”が入ることによって柔らかい印象を持てるような気がした。日本では学生の声が小さかったり、教師からの問いかけに一部の学生しか声を出さないという状況がしばしばあるが、この授業ではどの生徒もしっかり声を出していたように感じた。やはり自分で発音してみることは大切だ。

2コマ目の授業は韓国人の先生による授業だった。この先生の授業も英語のみの授業だった。まず授業の初めに先週学んだことを4人グループになって話し合う。驚いたのは机の向きが初めから、向かい合わせの4人グループになっていたことだ。初めからこの状態だと机を動かす時間が省略されるし、グループで話しやすいと思った。次にビデオの一部を見せ、次にこのビデオの内容についての問題を行う。教室の前にはスクリーンが用意されており、そこに映像や問題が映し出される。（例：She tells Elle to him . / She tries to her ex-boyfriend. といった文の下線部に適切な単語を入れる。）このビデオは learning strategy について表現するものだったので further Question として “Do you have any strategies for learning English?” “What strategies do you use to study?” という二つの事柄について話し合い、意見を交換し合う。ビデオを使って授業をすると楽しみながら自然な会話を学べると同時に、ビデオで取り扱われているテーマの部分で話し合うことができるので効果的な教材だと思う。次に教科書を使った授業に移る。Strategies for learning English についての英文3文を先生と一緒に読む。単語クイズをする。単語の品詞と意味を答える問題。意味については2択問題から選ぶ。大体5〜7問程度。そして教科書に載っている図書館での男女のイラストについてのクイズをする。イラストは二つあり、一つは机の上に本が散乱している部屋でやる気のなさそうな男子が描かれたイラスト。もう一つは男女ともまじめに勉強し本もきれいに開かれているようなイラストだった。この二つ目の様子についてのクイズが5問程度あった。そして文法の説明に移った。この授業では have +present perfect を取り扱っていた。“How long ~?” や “Have you ever ~?” というような質問を自分たちで作りその質問に答えるというような形式だった。最後にすごろくゲームをしていた。自分のコマが止まったところに “How long ~?” や “Have you ever ~?” といった問題が書いてあり、グループの誰かが質問し、コマの持ち主がそれに答えると言ったゲームだった。この授業は1時間という時間の中でこんなにたくさんことができるのだと驚かされるような授業だった。ほとんど黒板を使わず電子黒板のスクリーンに英文を映すことによって板書の時間が省かれ効率的だったと思う。すごろくゲームの優勝者に褒美があったことも学生のモチベーションを高める。

○培花女子高校

培花女子高校は私立の女子高で、ここでは一人の韓国人の先生による授業を二つ参観させてもらった。一つ目は韓国語を用いた英語の授業だった。ここで驚いたのは前日見たソウル女子大と同様にあまり黒板を使わないという点だ。この学校ではどの教室にもデジタルパネルが設置しており、ここに電子教科書の英文を映し出して授業を行っていた。先生自前のコンピューターに書かれた文字やマークがパネルに映し出される。そこで足りない分を補足として黒板に書いていく。この先生の黒板は板書の使い方もきれいだったが何より字がきれいだった。後で聞いたところによると、この先生の板書の美しさには定評があるという。私が中高と経験してきた中でも黒板の字がきれいな先生は少なかったような気がする。字がきれいだと見やすいし何となく勉強しやすいような気がする。教科書は1センチほどの厚さだった。正直に言うと、この授業は韓国語で行われたので残念ながら授業の内容についてはよく理解できなかった。

2コマ目の授業はすべて英語で行われ、ここでもデジタルパネルが活躍していた。先生の説明はすべて英語で先生からの質問に生徒は英語で答えていた。ほとんどの生徒が先生の方を向き先生の話聞いていた。ノートをとる子もいたが少なかったように思う。1コマ目も2コマ目も机は先生の方を向いていた。机の配置は横に長く並んでいたため先生が目が届きやすそうだった。どの生徒も集中して授業に取り組んでおり、その集中力に驚かされた。

○礼一学園

礼一学園は幼稚園から高校、大学までを擁する私立の学園である。ここではその高等部、礼一デザイン高校での授業について述べようと思う。参観した Reading の授業では主に韓国語が用いられていた。この授業でも黒板は使用しないでデジタルホワイトボードにデジタル教科書の画面を映し出して授業を行う形式だった。培花女子高校とは対照的にスクリーンの方を見る生徒が少なく、ほとんどか教科書の方を見て授業を受けていた。この学校のスクリーンは最新式で先生の手の動きに合わせて画面が動いていた。この授業はとにかくテンポよく進み、ついていくのが大変な授業だった。英文について、内容や単語および構文の説明がどんどん行われる。その中で、重要なイディオムが出てくるとそれに関連する例をいくつか出したり、単語の意味や派生語を生徒に質問して全員で答えさせる活動がふんだんに取り入れられていた。ほとんどの生徒たちは教科書に意味ユニットごとにスラッシュを入れて授業に臨んでいた。日本では英文を後ろから前に訳していくが、この授業では前から意味をとらえて訳していた。このほうが効率的に内容を英語らしく捉えられるので、日本でも採用すべき方法だと思う。

4. おわりにかえて（韓国という隣国）

終戦後日本と韓国の間では、竹島領土問題や慰安婦問題などまだ解決できていない問題が多い。フィールドワークの準備をしている最中に、韓国で福島第一原発事故の汚染水が大量に海に流出しているのではないかとニュースが大きく取り上げられ、それに伴う反日感情が報道されていることを知った。このような時期に、日本人である私が韓国の学校を突然訪問するとどのような反応が返ってくるのか不安だった。私が高校二年生の時に交換留学生として韓国の女の子が数名来てくれたことがある。パディであった生徒は交換留学生と仲良く接していたし、積極的な性格の生徒たちは初対面でも留学生にどんどん話しかけていった。この時、韓国の生徒達が来て、いつもよりもクラスの雰囲気明るくなったことをよく覚えている。今回、日本人である私が訪問することによってクラスの様子が変わるのか、自分の身で体験したいと思った。ソウルでの学校訪問が始まると、どの学校の先生も常に笑顔で迎えてくれた。ソウル女子大学では3つも授業を見せてもらえたり、培花女子高校ではビデオ撮影を許可してもらえたり、礼一学園では小学生から高校までの教室を案内してもらった。とくに印象的だったのが、礼一学園の校長先生だ。お会いした瞬間から満面の笑みで迎えてくれて、ここも見せてあげてとか、この生徒を紹介しようとか、いろいろ提案してくれた。礼一学園での授業参観の時にホワイトボードに私たちの名前とメッセージを書いて歓迎してくれたこともうれしかった。礼一学園で日本の文化に興味がある一人の生徒は日本人の私も知らないようなアニメの話を楽しそうに話してくれ、日本に純粋に興味を持ってくれる人がいるということがうれしかった。

今回の学校視察や授業参観を通して、韓国と日本の英語教育についていくつかの相違点を見出すことができた。また、実際の授業参観によって、授業現場での教師の熱意や生徒のレスポンスの状況を間近に観察することができたのはよい経験となった。これを機にして、6日間のソウル滞在だけでは十分な答えを見つけないことができなかった問題や疑問について、さらに調べていきたいと思う。次に韓国に行くときには、会話ができる程度に韓国語を習得して私自身が韓国の人たちとうまくかかわっていけたらいいと思う。そのためにもっと韓国語を勉強しなければならないし、韓国と日本の政治状況や、文化的価値観の違いなどについてよく知っていかなければならないと思った。